

平成28年度夏 VPcamp参加学生 アンケート結果

参加人数:111人

回答数:90人

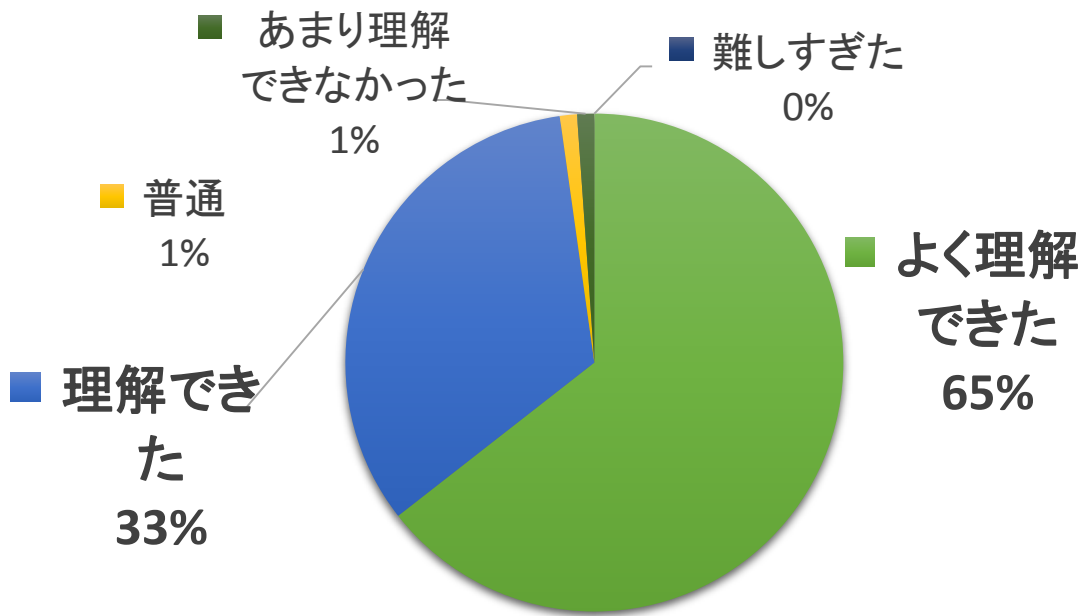


- アンケートの目的:
 - ・実習の事後評価
 - ・実習プログラムおよび事務局の課題点発掘
 - ・広報用のデータ収集
- アンケートの方法:
 - ・無記名式
 - ・実習終了後、参加学生に対してWEBフォームによるアンケート回答をメールで依頼 <http://www.vetintern.jp/questionnaire-student/>

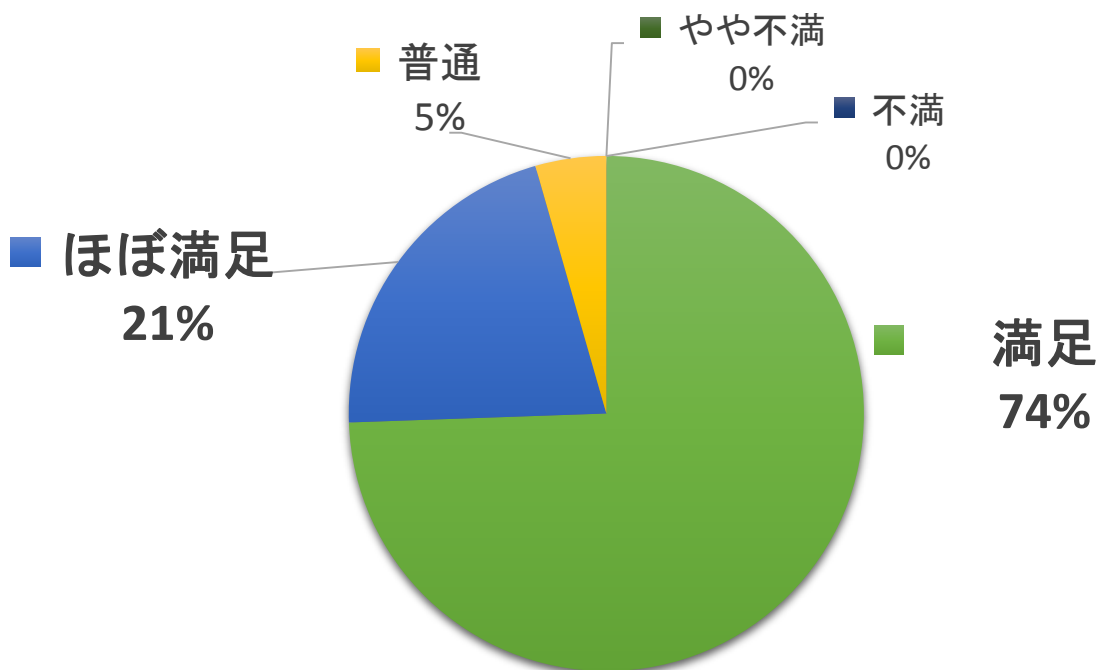
平成28年12月5日
VPcamp事務局

「参加したVPcampの内容についてよく理解できたか」や、「実習内容についての感想」においては、**9割以上**の学生たちから肯定的評価が得られています。

VPcampの内容についての理解

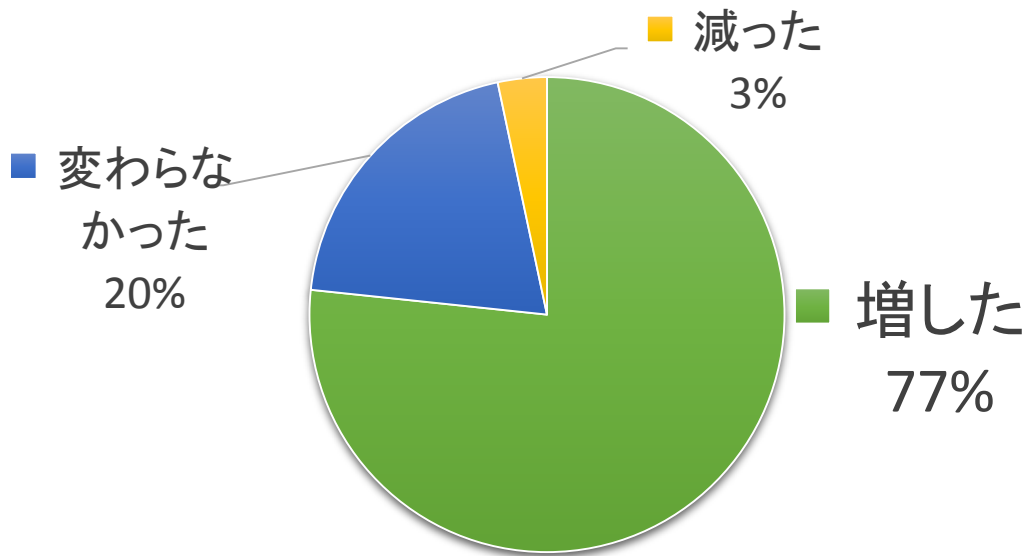


実習内容の感想

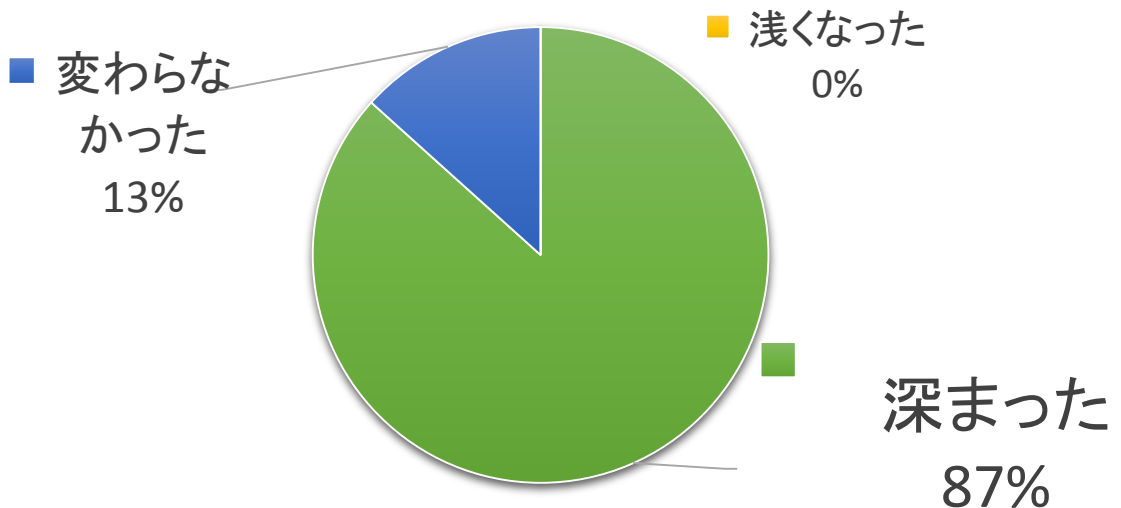


「参加したVPcampを通じて、公衆衛生行政への関心や理解が深まったか」に関しては、「増した」「深まった」との回答がほとんどで、公衆衛生行政としての自治体の実習プログラムが充実していることがうかがえます。

公衆衛生への関心



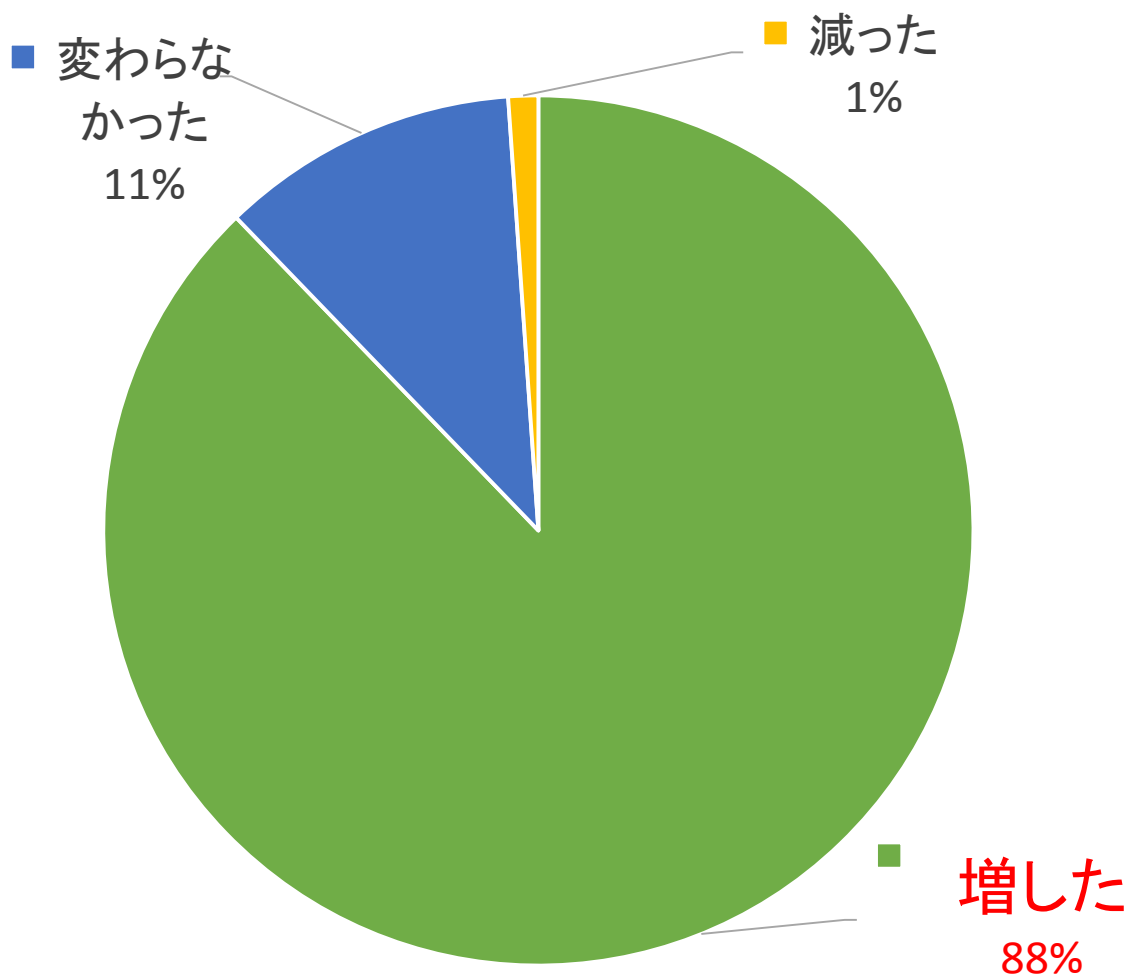
公衆衛生への理解



「参加したVPcampを通じ、実習先の自治体の対して就職先としての関心が増したか」については、**8割以上**の学生たちが「増した」と回答。

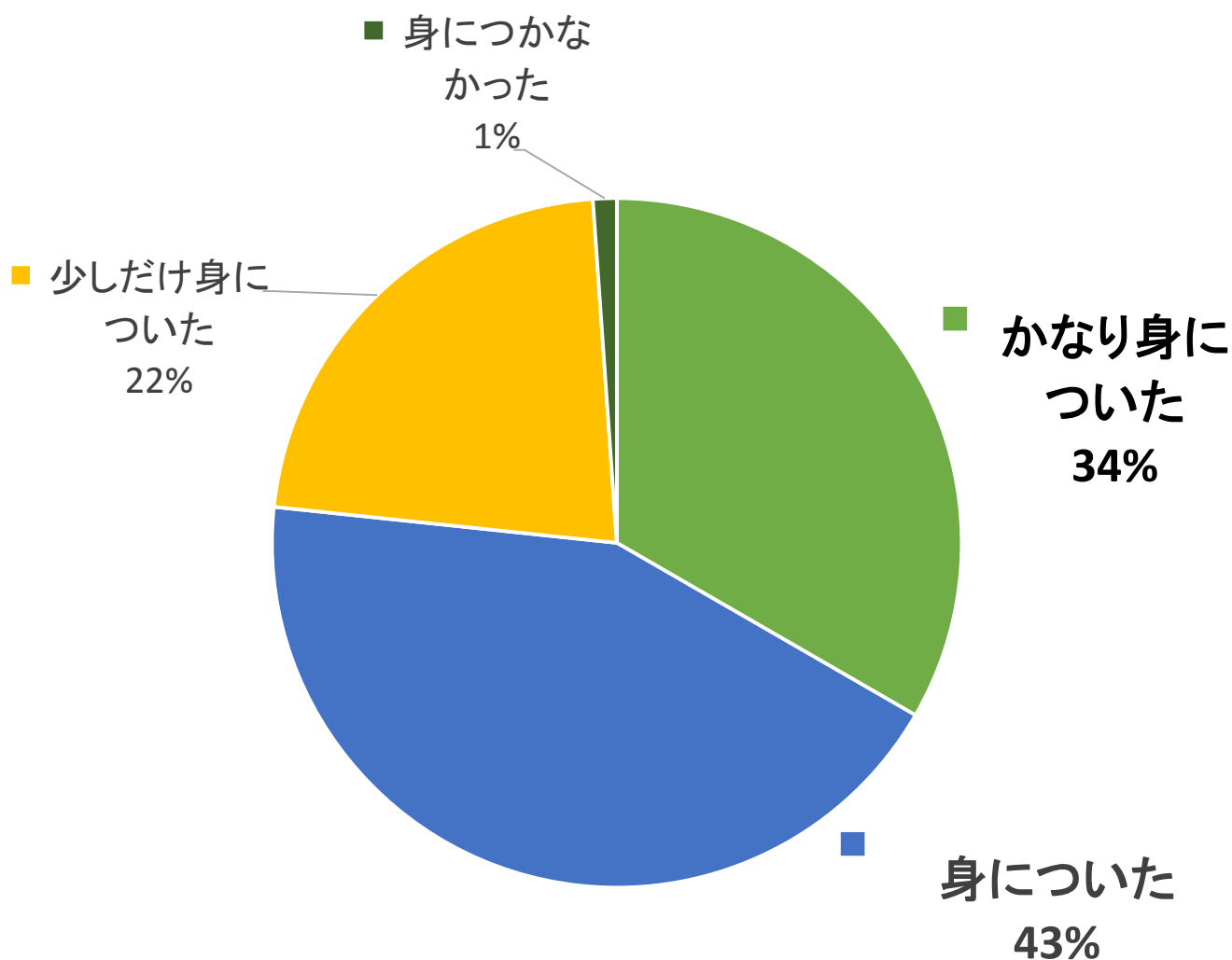
「実際の現場を知ることによって、自分の目指す方向性が固まったり、勉強や就職への意欲がにつながった」という声が多く寄せられています。

就職先としての**関心**



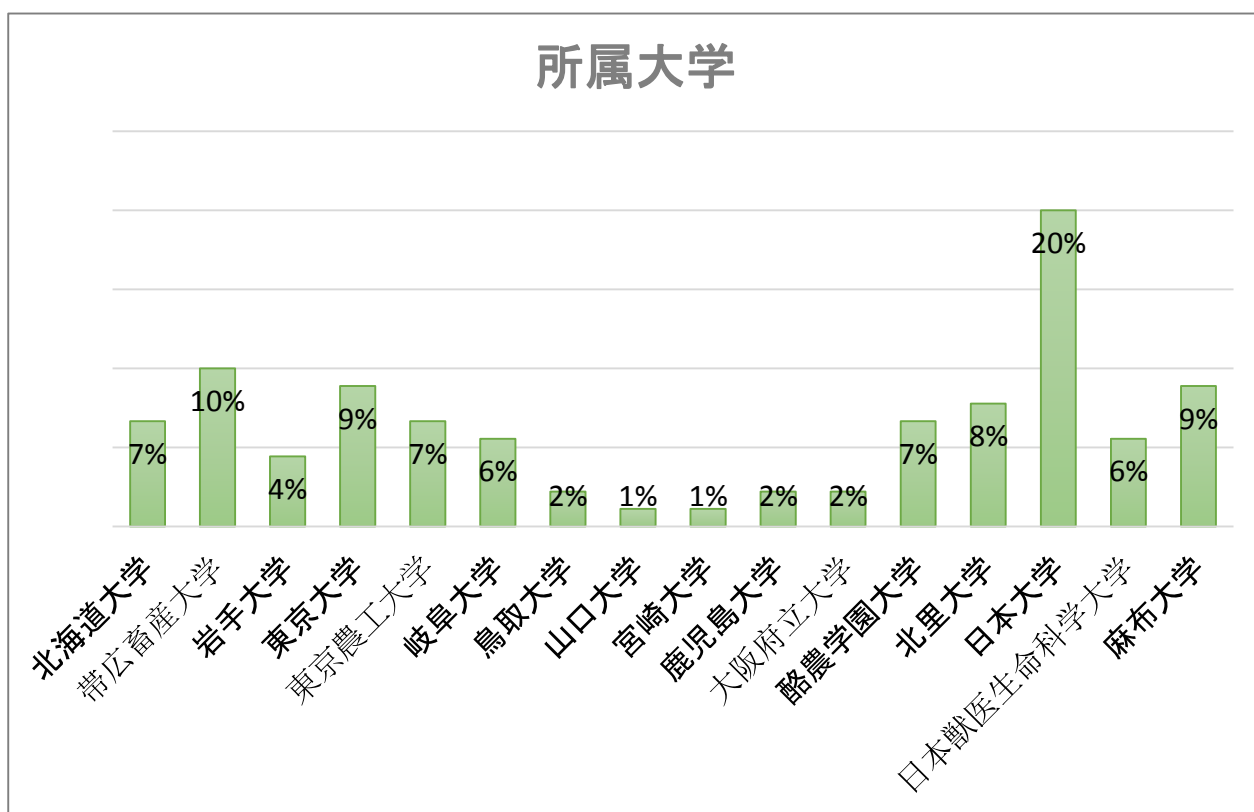
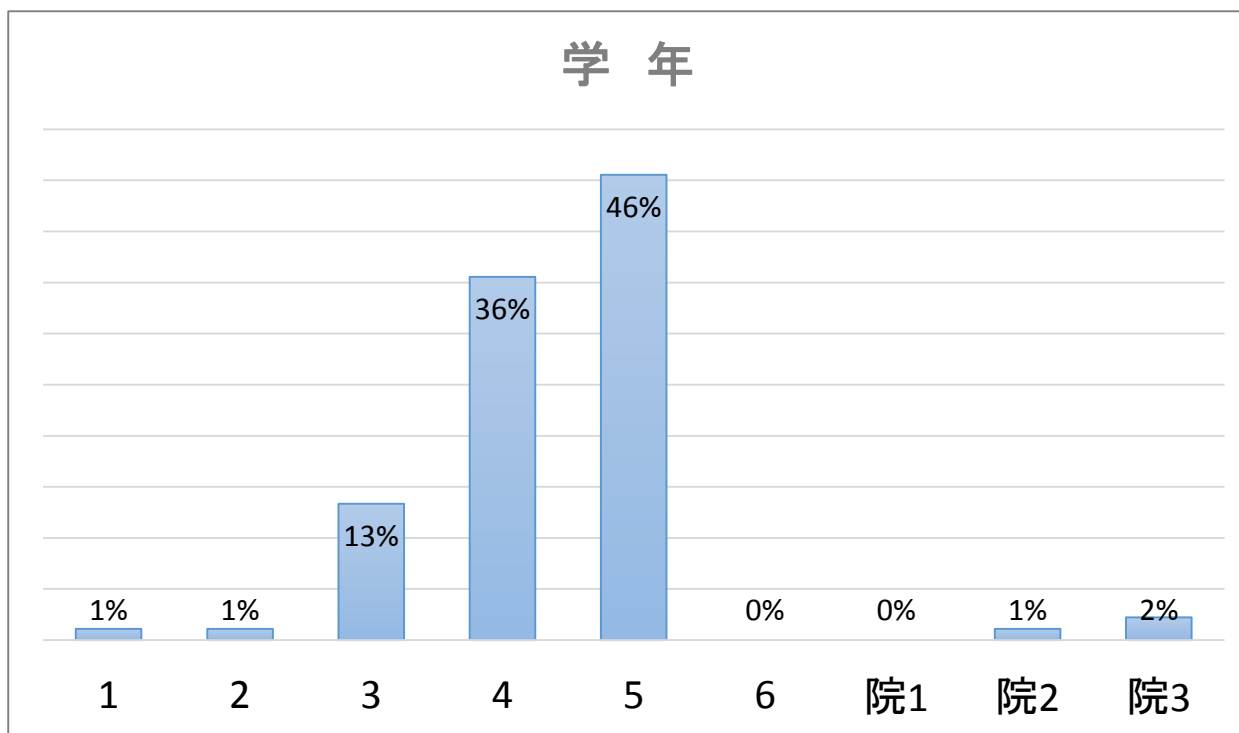
「大学の授業だけでは体験できない実践的知識や技術を学ぶことができた」との回答が多く寄せられた「実践的知識や技術の習得」におけるアンケート結果は、昨年の夏のアンケート結果での「かなり身についた」24%、「身についた」43%、「少しだけ身についた」29%であったので、「身についた」という回答が増加。

実践的知識や技術の習得



参加学生(回答者の)の学年や所属大学は以下のとおりでした。
4、5年生の参加が多い中、3年生の参加の増加(H27年夏は5%)が見られている。

早くから参加し、「自分の進路」をしっかりと考えるために活用してもらうのもおすすめです。

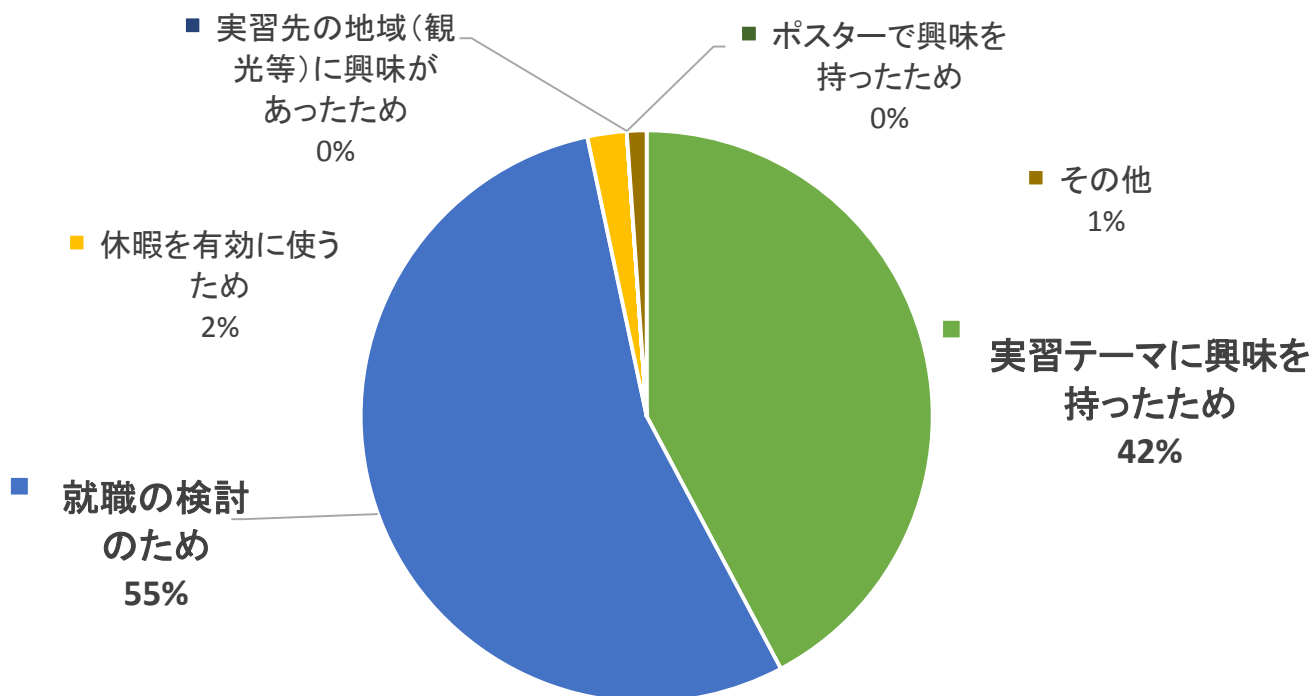


国立大34%、私立大66%、回答なし0%

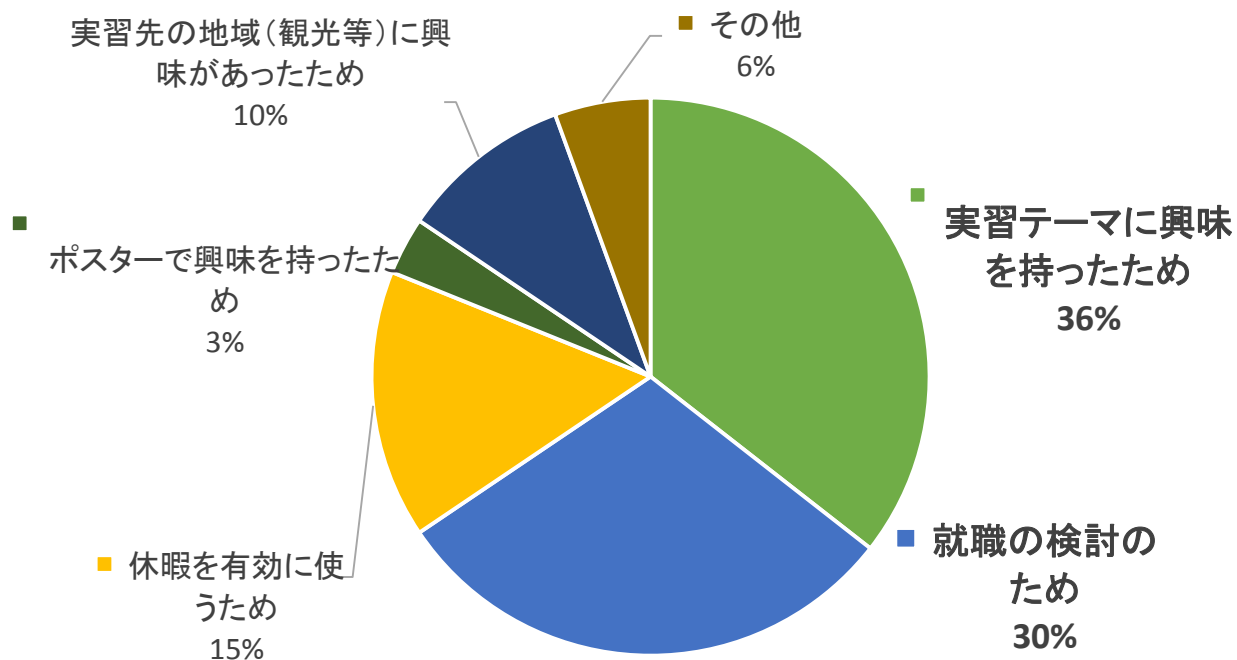
「VPcampへの応募の理由・動機は「実習テーマに興味を持ったため」「就職検討のため」。

VPcamp実習の重要性は高いと考えられます。

志望第一動機

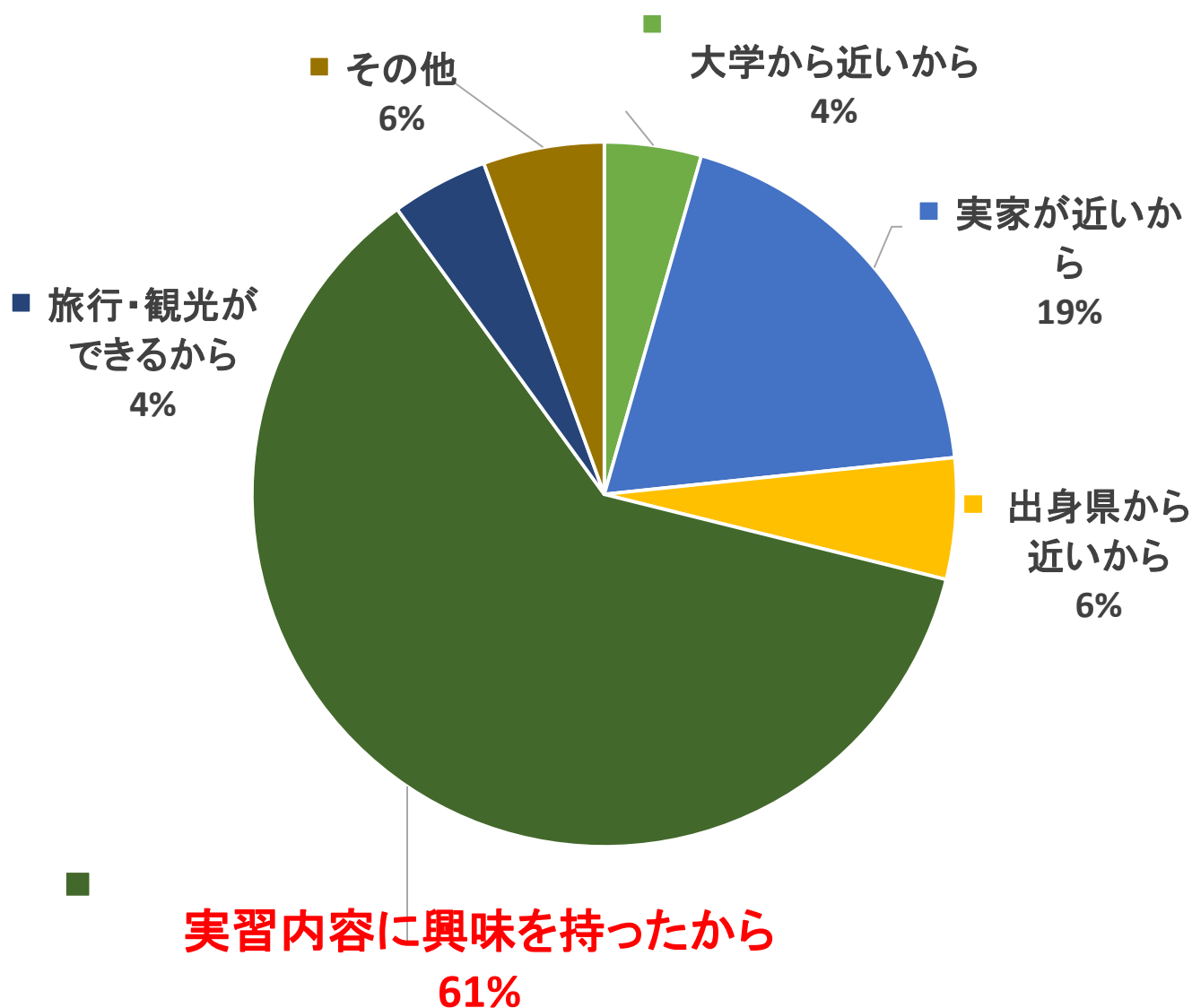


志望第二動機



実習先の選択にあっては、実習内容で選んでいる学生さんが多いということが分かります。実りのある実習体験をしていただけるよう、実習内容のさらなる充実を図っていきたいと思います。

実習先の選択理由

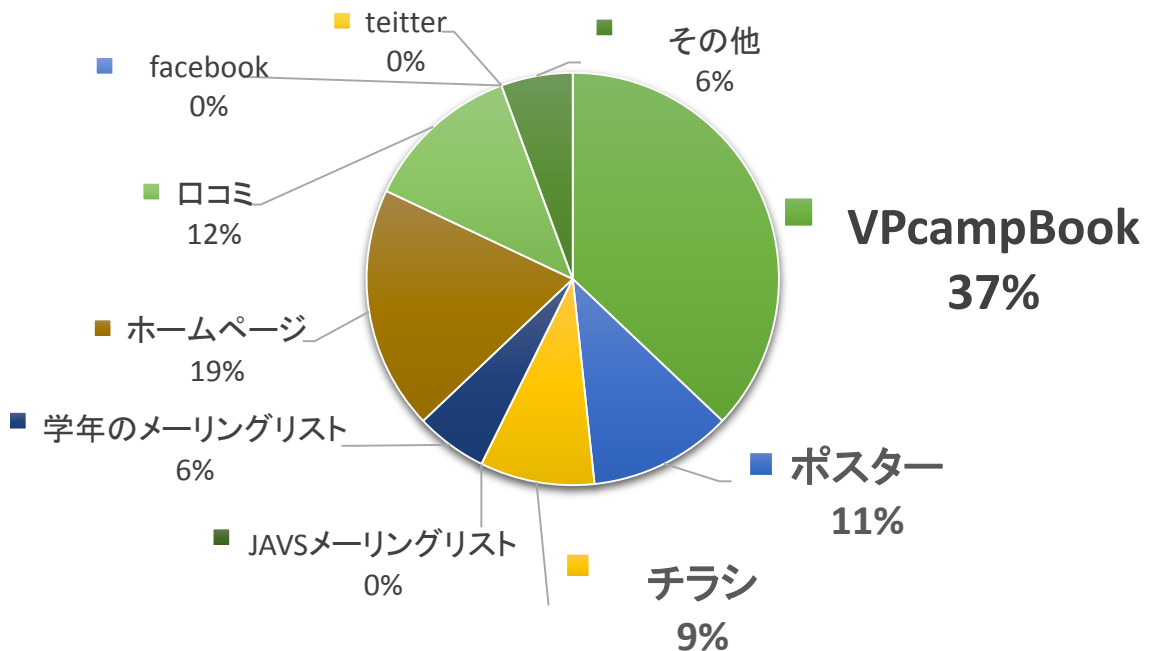


Vppcamp情報やVpcampホームページを見るきっかけとなったのは、圧倒的に「VPcampBook」でした。

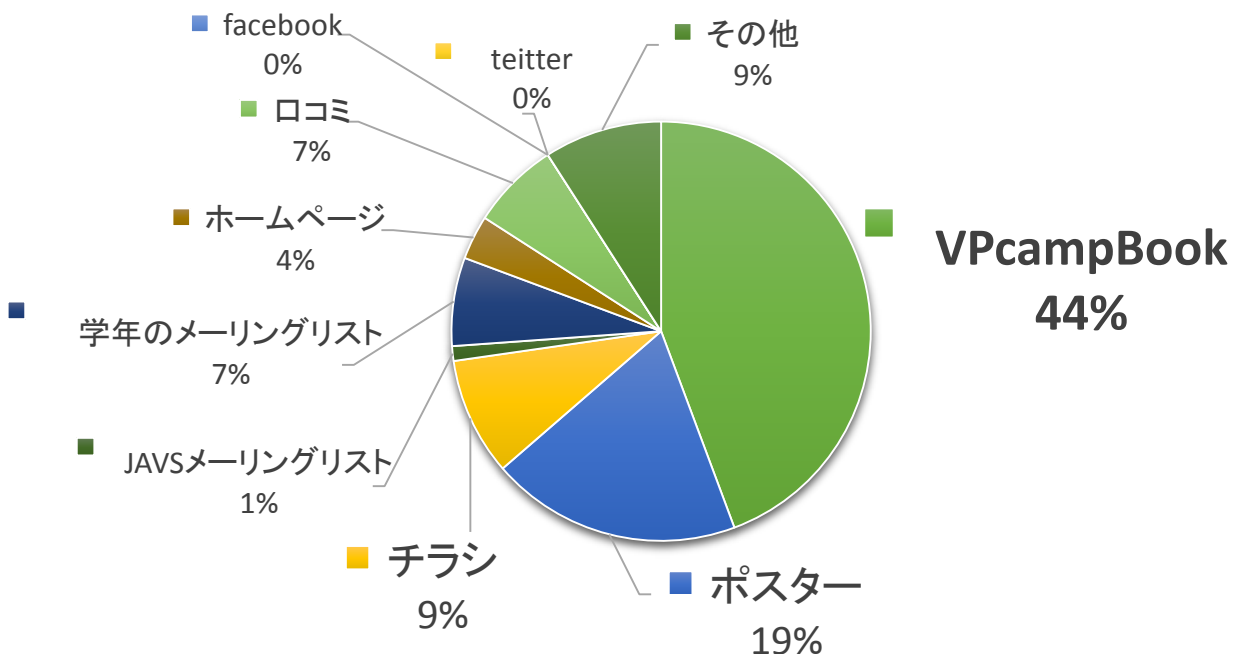
全国の獣医系の大学にパンフレット(チラシ)やポスター等も配布しています。

より多くの学生さんに参加してもらえるよう、これからも広報活動に頑張っていきたいと思えます。

VPcampを知ったきっかけ



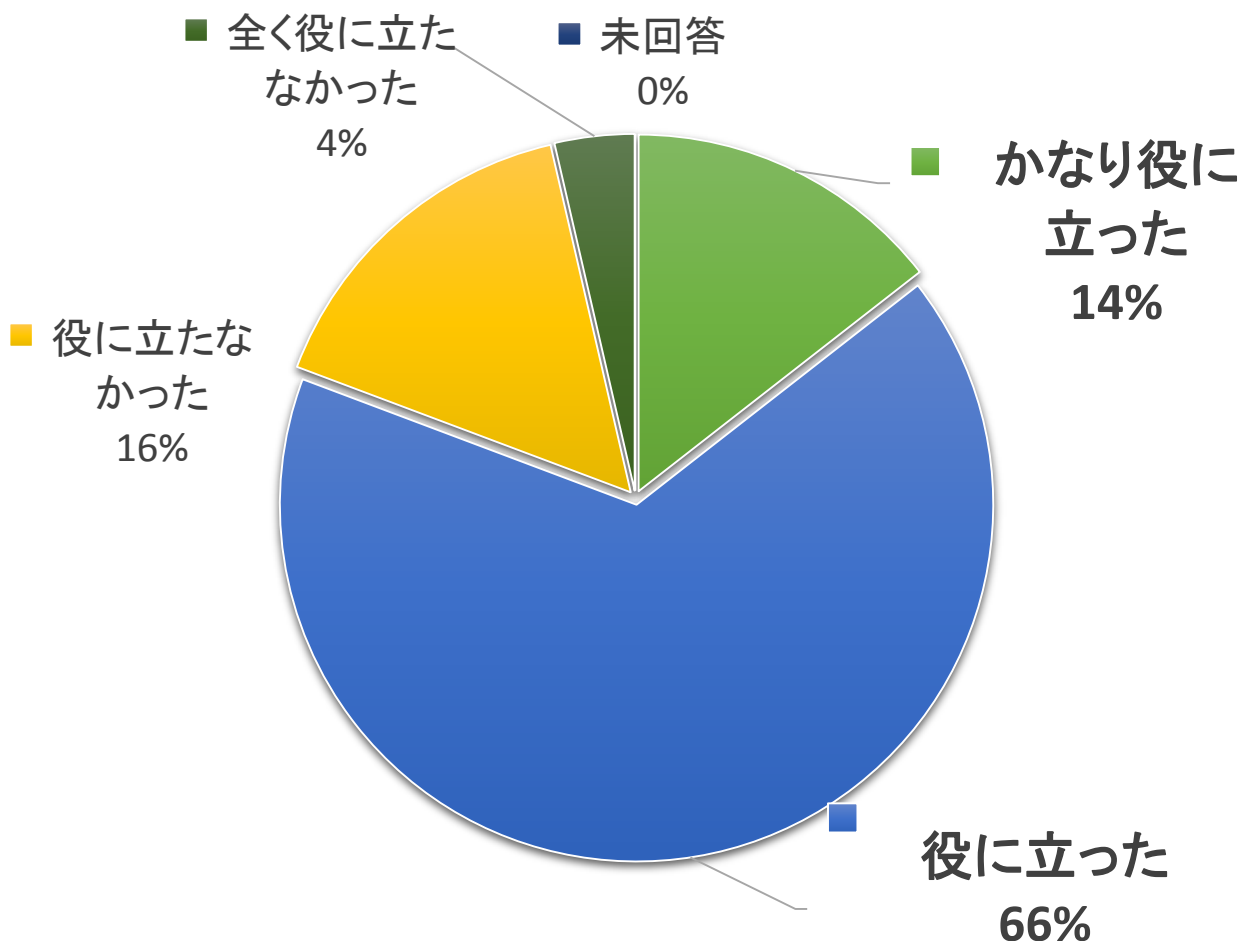
HPを見たきっかけ



平成28年12月現在、74講義となったVPcampの事前講義。
8割近い「かなり役に立った」「役に立った」との回答。大学の先生から自治体や企業の方々からもご協力をいただき、ますます充実の事前講義です。

様々な分野を取り揃えているので、自分の興味ある分野を探してみるのもひとつ。実習参加をひとつの機会として、知識のおさらいにも。ぜひあなたも活用してください。

事前講義は役に立ちましたか？



いただいたコメントより(一部抜粋)



実習を終えて...

- ・保健所や食肉衛生検査所、衛生研究所といった公務員になったときに就く可能性のある職場の実際の様子や業務を知ることができ、将来公務員獣医師として働くことの具体的なイメージができた。
- ・日頃の大学の講義だけでは知ることのできない業務を体験し、リアルな現場を肌で感じる事ができた。



業務を体験して...

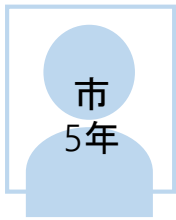
- ・インターネットで調べただけでは分からなかった獣医師の業務や県庁と他機関とのつながりと働き方の違いを見ることができた。
- ・食品の収去やその検査、施設への立入検査、突発的に起きた食中毒の対応など、どれも貴重な経験をする事が出来た。
- ・小動物獣医師の職務しか知らなかった自分の視野が大きく広がった。今までに大学で習った講義の内容についても更に知識が深まり、獣医学の様々な分野により興味を抱くようになった。



受入機関から学生の皆さんへ

- ・公衆衛生に係る業務内容をまんべんなく網羅した実習を組んでいることで、保健所業務を知りたい実習生にも満足してもらえる内容だと思います。
- ・畜産研究所の研究員の思い(家畜改良や畜産振興)に触れ、最先端技術も垣間見ることができます。
- ・獣医師が社会活動の中でどのような役割を担っているのか、実習を通じて理解を深めていただきたいです。

その他参加学生からの声



市役所・保健所・と畜場・愛護センターと幅広く実習を受けさせて頂き、就職の検討に非常に良い参考となった。



実際に立入検査等に同行させて頂くなど、たくさんの貴重な体験をさせて頂き、実際に体験してみなければ分からないことを学ぶことができた。参加して本当に良かった。



公衆衛生に従事する獣医師の働く現場をじっくりと見ることが出来た公務員が厳重な管理をすることで、多くの人々の食の安全が守られ環境衛生を保持されているということを実感することが出来た。



と畜場にて実際の臓器に触れるなど、貴重な体験ができた。大学で学んだ公衆衛生の仕事が実際の現場でどのように仕事となるか分かり新鮮だった。



獣医師であれば獣医学領域の知識を持っていることは基本中の基本であり、一般常識など、専門外の知識を持つことの重要性と今学んでいることがいかに現場で使えるかを学べた。



鶏の病理解剖など大学ではできない経験が出来、得られるものが多かった。また働く方の話を聞くことが出来、大変参考になった。

たくさんのご回答を本当にありがとうございました。これからもVPcampを活用して、確かな将来をみつけてください。